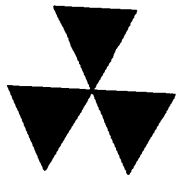


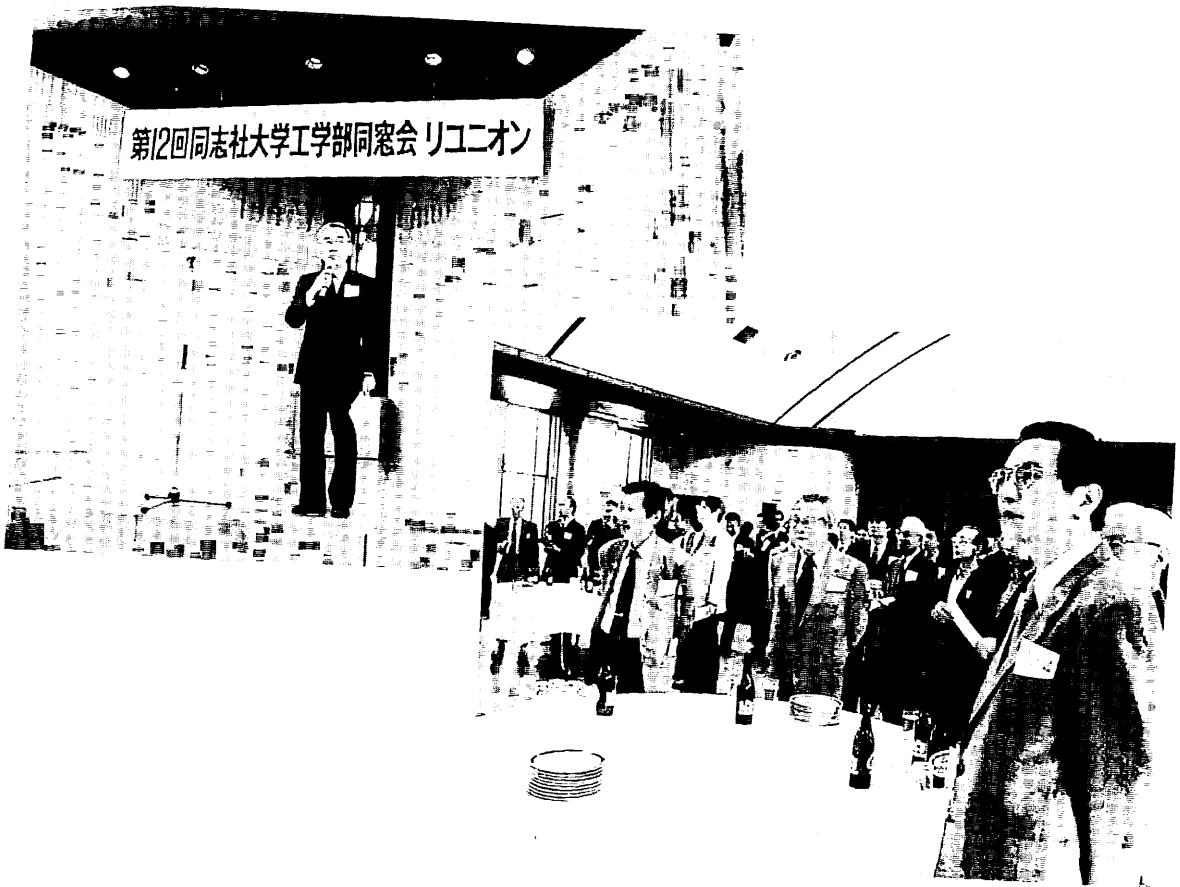
DoKoネット

—同志社大学工学部同窓会報—
第2号(2000)



DoKoネット

—同志社大学工学部同窓会報—
第2号(2000)



What's New!

2000年度工学部同窓会リユニオン

2000年11月11日(土)

第1部 13:00~15:00 総会・懇親会 新島会館

(京都市上京区寺町丸太町上ル)

第2部 15:00~ 卒業年グループリユニオン

ー卒業年グループリユニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さいー

2000年度のリユニオン第2部は各卒業年グループごとにお集まり願いますが、特に5N周年(S25, 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, H2, 7年卒業)の方々には特別に企画いただく予定となっております。詳細は下記ホームページでお知らせします。

ホームページを開設しています

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>

(URLのはじめはwww1ですのでご注意ください)

このページは工学部からのお知らせと共に工学部同窓会リユニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただきます。

本同窓会報”DoKoネット”第3号は2001年2月に発行いたします。

皆様の寄稿をお待ちいたしております。

What's New!

2000年度工学部同窓会リユニオン

2000年11月11日(土)

- 第1部 13:00～15:00 総会・懇親会 新島会館
(京都市上京区寺町丸太町上ル)
- 第2部 15:00～ 卒業年グループリユニオン

ー卒業年グループリユニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さいー

2000年度のリユニオン第2部は各卒業年グループごとにお集まり願いますが、特に5N周年(S25, 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, H2, 7年卒業)の方々には特別に企画いただく予定となっております。詳細は下記ホームページでお知らせします。

ホームページを開設しています

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>

(URLのはじめはwww1ですのでご注意ください)

このページは工学部からのお知らせと共に工学部同窓会リユニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただきます。

本同窓会報”DoKoネット”第3号は2001年2月に発行いたします。

皆様の寄稿をお待ちいたしております。

工学部設置50周年に寄せて

同志社大学工学部長
千田 衛

工学部同窓会報第2号の発行にあたり、卒業生の皆様にご挨拶申し上げます。同志社大学は西暦2000年に創立125周年を迎えますが、工学部の源流は1890年に設立されたハリス理化学校に遡りますから、本学における理工学教育は一世紀以上の歴史を誇ることとなります。また、新制大学の発足とともに工学部に電気学科・機械学科・工業化学科が設置されてから数えて、本年は50年目にあたります。これまで工学部では、学部・大学院における教育・研究の充実を図り、産業界のあらゆる分野で活躍されている卒業生を約30000人送り出してきました。

1994年には、念願の田辺キャンパスへの工学部統合移転が実現したことを機に知識工学科を新設し、現在工学部は7学科から、大学院工学研究科は電気工学専攻・機械工学専攻・工業化学専攻に加えて、知識工学専攻と同時に設置された数理環境科学専攻の5専攻を擁しています。とくに、田辺キャンパスへの移転後は大学院の重視化に努め、また学外の方にも共同で利用していただける研究施設や機器の整備を行い、先端的な研究・技術開発と産学交流をより一層推進するため「先端科学技術センター」を創考館に開設しました。卒業生の皆様には、是非とも一度田辺キャンパスに足を運んでいただき、これらの研究施設をご覧くださいと思います。

今、社会ではさまざまな構造改革の必要性が指摘されていますが、このことは大学においても例外ではありません。18歳人口の減少による少子化により、大学への入学者の質的変化と多様性への対応が大学にとって大きな課題であります。一方、企業活動のグローバル化によって、国際的に通用する技術者が求められています。そしてグローバルエンジニアを育てるために、大学における理工学教育の在り方が問われるようになり、日本でも技術者教育プログラムを認定する日本技術者教育認定機構が発足しました。グローバルエンジニアであるためには、これまでの問題解決能力(アナリシス)から問題発見能力(シンセシス)をもった学生を育て、送り出すことが必要となります。そのためには従来の基礎科目と応用科目の履修に加えて、技術者としての教養と倫理や発表・討議などのコミュニケーション能力が求められます。これは大学独自では対応しきれない、大きな課題であるように思います。そうであるとすれば、企業と大学との今まで以上の密接な連携が、場合によっては技術だけでなく人的な交流も重要になるのではないかと考えています。

同窓会は卒業生が一堂に会し、親交を深めることがその主な目的ではありますが、皆様には本学に対してご支援と忌憚のないご意見を賜りたいと願う次第であります。何分、同窓会は誕生したばかりであり、その基盤が十分に固まっているわけではありません。これを育てていくには教職員の努力が必要なことは言うまでもありませんが、同時に卒業生の皆様のご協力が欠かせません。どうか同級生の方々に声を掛けていただき、同窓会を大いに盛り上げていただきたいと思います。

工学部同窓会リュニオンのご案内と会費納入のお願い

同窓会幹事会

同志社大学工学部の同窓会活動は、従来工学会の活動の一つとして行われてまいりました。第1回リュニオンを1987年に開催し、第2回はご家族を含め613名の御参加を得て田辺キャンパスで開催し、その後1995年の震災の年を除き毎年開催いたしております。1995年に工学会に属する形で同志社大学工学部同窓会が発足したのに伴い、1997年の第10回から同窓会主催の工学部同窓会リュニオンとして開催いたしております。1999年より、リュニオンを2つに分け第1部で総会開催と懇親会を行い、第2部で卒業年ごとのグループリュニオンを開催して、卒業後の節目になります5年ごとの学年の方々には特に5N周年特別記念同窓会として開催して頂きました(11頁参照)。本年の第13回は表紙裏にありますように2000年11月11日(土)開催予定です。第2部の5N周年特別記念同窓会卒業年グループリュニオンは5周年が1995(H7)年、10周年が1990(H2)年、15周年が1985(S60)年・・・、50周年が1950(S25)年3月卒業の方々を対象となります。なお5N周年に限らず、各学科の卒業年ごとに世話役を同窓会事務局へお知らせ頂ければ、最新の卒業年グループの名簿と宛名ラベルをお送りさせていただきます。

当面の同窓会活動として、年に一度の同窓会報「DoKo ネット」の発行と、ホームページの充実、第13回リュニオンの開催を考えております。この活動を円滑に進めてゆくには、まず同窓会を会計的に一人立ちさせる必要があり、年会費2,000円納入を卒業生の皆様をお願い致しております。昨年度の会費納入が予定より少なく本年は卒業生全員に「DoKo ネット」をお送り出来ない状況です。現在の会計状態をご推察の上会費納入のご支援いただければ深甚に存じます。事務処理の効率化と経費節約を図るために、新しい年会費納入方式としてユーシーカード株式会社と契約いたし、UC集金代行システムを利用し口座自動振替による年会費の引き落とし方式を導入いたしております。是非この方式により年会費をお納め下さるようお願いいたします。なお、すでに自動振替の手続きをいただいている方は、同封の用紙を未手続きのご友人にお渡しいただければ幸いです。

工学部同窓会年会費 2,000 円納入方法

1. 自動口座振替 新規お申込は同封の口座振替依頼書に必用事項を記入し返送下さい。
2. 郵便振替 同封の振替用紙にてお手続き下さい。
00990-0-151193：同志社大学工学部同窓会
3. VISA, Master Card 同封の Fax 用紙にてお手続き下さい。
4. 銀行振込 南都銀行京田辺支店(店番740) 普通預金口座 218806
口座名 同志社大学工学部同窓会 代表者 加納 航治

★従来の同志社工学会の年会費とは異なります。

学科紹介

知識工学科

ユニークな情報系学科として 1994 年に産声をあげた知識工学科は、2000 年 3 月に満 6 歳となり大学院の知識工学専攻から初めての修士が誕生します。また、昨年 12 月に文部省から認可がおりましたので、4 月からは博士課程後期がスタートいたします。これで、学部から大学院博士課程後期まで全課程が完備します。

1999 年度は、学部 1 年生 103 名、2 年生 116 名、3 年生 152 名、4 年生(卒業見込)96 名。大学院 M1 生 43 名、M2 生 35 名です。現時点では、4 年生で大学院進学希望者は 42 名、就職内定者は希望者は 46 名、M2 生で後期課程進学希望者は 2 名、就職内定者は希望者は 31 名です。就職先は、電機関連産業、情報関連産業を中心に多種にわたり、知識工学科、知識工学専攻の学生の社会的需要度の高さを示しております。

2000 年度から大学院科目では、コンピュータビジョン特論と進化的計算法特論、学部科目では、知識工学応用

論、知覚情報システム論、プログラミング法 IV、論理回路と大規模集積回路、知的システム工学が始まり、カリキュラムが一層充実します。また、2000 年度には知識工学科が中核となった大型プロジェクト学術フロンティア「知能情報科学とその応用」の実施開始が計画されており、現在文部省の認可を待っております。

現在、知識工学科、知識工学専攻には次にあげる研究室があり、卒業年次、修了年次の学生達は、それぞれの研究に意欲的に励んでおります。情報数理工学(渡辺陽一郎教授・原田等講師)、知覚・認知機構(力丸裕教授)、情報システム学(三森定道教授・芳賀博英助教授)、知覚情報処理(河岡司教授・渡部広一助教授)、知的機構(柳田益造教授・坂東敏博助教授)、知的システムデザイン(三木光範教授・廣安知之助手)、数理モデル(川崎廣吉教授・岡崎龍太郎講師)の 7 研究室(教員 13 名)です。

教務主任 力丸 裕

電気工学科・電子工学科

1999 年 3 月には電気、電子両学科合わせて 287 名が卒業し、4 月には 319 名の新入生を迎えました。また、大学院博士課程(前期)電気工学専攻では 75 名に修士学位が授与され、84 名が新たに入学しました。教員の異動としては、本年度は電力系統研究室に東京大学から馬場吉弘先生が助手として着任されました。また、2000 年度には笹岡秀一先生を教授として、出口博之先生を専任講師としてお迎えする予定です。笹岡先生には電気系学科の長年の懸案となっております通信工学関連の研究室を新たに立ち上げていただくことになっております。電気系学科のこの一年間の大きな話題の一つは田辺キャンパス移転を機にカリキュラムの改定をして以来、8 年ぶりにカリキュラムの改定を検討し、来年度より新カリキュラムの実施を決定したことです。主なカリキュラムの変更点は、世間

で騒がれていますように大学生の学力低下の影響で、従来のカリキュラムでは消化不良を起こしかねない状況になりつつありますので、1 年次の科目を高校の勉学からスムーズに入っていけるようにしたことです。大型実験装置として、本年度は電気系学科が中心となって申請した時系列分光計が RCAST(先端科学技術センター)に入ることになり、より一層の研究の進展が期待されています。最後に電気系学科の本年度の就職状況ですが、卒業生の皆様の活躍によりまして各会社から高い評価をいただき、昨年度に比べ少しの落ち込み程度で、ほぼ全員が大学院進学あるいは就職と進路が決定しました。なお、学部、大学院合わせての企業への内定内訳は大企業 6 割、中企業 3 割、小企業 1 割で、昨年度とほぼ同じ割合です。

教務主任 辻 幹男

学科紹介

機械システム工学科・エネルギー機械工学科

機械系学科では、現在、学生在籍者総数は 1486 名で、その内訳は、機械システム工学科、1 年生 162 名、2 年生 182 名、3 年生 244 名、4 年生 104 名、総数 692 名であり、エネルギー機械工学科は 1 年生 129 名、2 年生 152 名、3 年生 187 名、4 年生 153 名、総数 621 名です。一方大学院(工学研究科機械工学専攻博士課程)は総数 173 名で、そのうち前期課程(修士)は 1 年生 91 名、2 年生 76 名、計 167 名であり、後期課程(博士)は 6 名が在籍しています。また、2000 年度より新カリキュラム、新研究室体制が発足し、より効率的で質の高い教育・研究への取り組みが開始されます。

現在、学生たちは次の研究室にて活発な研究を行っています。機械工作研究室(青山栄一教授)、機械要素研究室(坂口一彦教授・松岡敬教授)、構造工学研究室(藤井透教授・大窪和也専任講師)、噴霧・燃焼工学研

究室(藤本元教授・千田二郎教授)、制御工学研究室(原敬教授・横川隆一助教授)、材料工学研究室(今井田豊教授・長谷部忠司助教授)、材料応用工学研究室(片山傳生教授)、伝熱工学第一研究室(千田衛教授)、伝熱工学第二研究室(稲岡恭二助教授)、トライポロジー工学研究室(小林真造教授)、金属材料科学研究室(御牧拓郎教授・宮本博之研究助手)、機械力学研究室(小泉孝之教授・辻内伸好助教授)、流体工学研究室(山口博司教授)、流体力学研究室(平田勝哉助教授・舟木治朗専任講師)、応用力学研究室(水島二郎教授)、数学研究室(浦部治一郎教授・押目頼昌教授)、物理学第一研究室(小堀至教授)、物理学第二研究室(佐藤昌史助教授)の 18 研究室です。

教務主任 片山 傳生

数理環境科学専攻

本専攻は工学研究科修士課程の独立専攻(学部学科を基礎としない専攻)として 1998 年度に発足しました。学部で習得した工学の諸知識の上に、環境問題に取り組むために必要な数理学や地球科学・生命科学・健康科学の知識を習得し、環境問題に対応できる高度な技術者や研究者の要請を目指しています。

1 学年の定員は 20 名ですが、98 年度生は 29 名、99 年度生は 31 名が在籍しています。9 名の専任教員が専攻の教育研究を担当し、修士論文の研究を指導しています。新しい専攻であり、これまで学生指導の経験のない教員もいますので、工学研究科他専攻の協力を得て、これらの学生の約半数は他専攻の先生方の指導のもとに、環境関連テーマで修士論文の研究に取り組んでいます。また、環境問題は人文・社会科学とも深く関連しています

ので、文科系学部の卒業生も 98 年度生に 1 名、99 年度生に 2 名を受け入れております。社会人も 99 年度生に 2 名います。このように本専攻はきわめてユニークな専攻であります。

2000 年 3 月に最初の卒業生を送り出します。ユニークな専攻ではありますが、まだ発足したばかりの新しい専攻であり、知名度も低いので、就職活動には一定の困難性がありましたが、他専攻の就職委員の協力に助けられて、ほぼ 100%の就職率を達成できました。専攻のユニークさを反映して、一流の大企業から新生のベンチャー企業まで、情報・電気・機械・薬品・食品関係から天然ガス開発・技術者派遣業・SE まで、きわめて多彩な企業への就職が内定している状況です。

専攻主任 林田 明

学科紹介

機能分子工学科・物質化学工学科

最近、工学における基盤技術(コア・テクノロジー)として、「化学」が関与する産業分野は拡大しており、また基礎となる学問領域も多様化しています。このような大学を取巻く環境の変化に対応するため、1994年に機能分子工学科(旧,工業化学科)と物質化学工学科(旧,化学工学科)が設置されました。機能分子工学科では、応用化学コース(合成化学, 反応機構, 電気化学, セラミックスなど)と生物関連化学コース(生化学, 有機機能物質化学, 生体高分子など)を学びます。物質化学工学科では、新素材のプロセス設計からバイオプロセス制御まで、人と環境にやさしいシステムの創製をめざして化学物質の生産プロセスに係る工学を学びます。

現在、在籍者数は、機能分子工学科 621名(卒論生126名)、物質化学工学科 577名(卒論生120名)です。また約30%が大学院(他大学大学院を含む)に進学し、同志社大学大学院工学研究科・工業化学専攻には、博士前期課程127名、博士後期課程10名が在籍して研究に励んでいます。研究室名・担当者は以下のようです。

<機能分子工学科> 電気化学研究室(山下正通教授、

田坂明政教授, 竹村英昭実験講師), 高分子化学研究室(丹羽政三教授, 東 信行教授, 松本孝広実験講師), 有機化学研究室(山下正和教授, 田中義文助手, 大西慶一郎実験講師), 無機合成化学研究室(山口 修教授, 廣田 健助教授, 芳仲 捷実験講師), 有機合成化学研究室(古川 功教授, 太田哲男助教授, 山下隆之実験講師), 機能有機化学研究室(加納航治教授, 小寺政人助教授), 物理化学研究室(上野正勝教授, 伊吹和泰助教授, 土橋倫昭実験講師)

<物質化学工学科> 移動現象研究室(田中幹也教授, 森 康維教授, 越村寛一実験講師), 熱プロセス工学研究室(立脇徳松教授), 材料システム研究室(高野 頌教授, 伊藤正行教授, 仁科修治実験講師), 計測分離工学研究室(中島理一郎教授, 塚越一彦助教授, 田村 隆実験講師), 粉体工学研究室(日高重助教授, 白川善幸講師, 下坂厚子実験講師), 応用数学研究室(堀内龍太郎教授), 生物化学工学研究室(近藤和生教授, 松本道明助教授), バイオシステム研究室(西岡 一教授)

教務主任 高野 頌

2000年度工学部就職委員

	担当者	就職委員室	連絡先
知識工学科	河岡 司	有徳館東館 YM-223	Tel:0774-65-6249, Fax:0774-65-6809 Email:js-koul@mail.doshisha.ac.jp
電気系学科	渡辺 好章	有徳館西館 YE-513	Tel:0774-65-6246, Fax:0774-65-6806 Email:js-kou2@mail.doshisha.ac.jp
機械系学科	千田 二郎	有徳館東館 YM-103	Tel:0774-65-6247, Fax:0774-65-6807 Email:js-kou3@mail.doshisha.ac.jp
化学系学科	中島 理一郎	至心館 SC-207	Tel:0774-65-6248, Fax:0774-65-6808 Email:js-kou4@mail.doshisha.ac.jp
数理環境科学	林田 明	報辰館 HS-110	Tel:0774-65-6250, Fax:0774-65-6250 Email:js-kou5@mail.doshisha.ac.jp

就職関連資料室: Tel:0774-65-6240, Fax:0774-65-6805

社会とのネットワーク

1. 先端科学技術センター(RCAST)

同志社大学工学部では1994年4月田辺キャンパスへの全面的な統合移転を機に、学外の方にも共同で利用していただける実験施設として創考館を建設し、多くの研究成果をあげてまいりました。1997年にはこの創考館を主施設として、先端的な技術研究開発と、産学交流をより一層推進するため先端科学技術センター(Research Center for Advanced Science and Technology, Doshisha University 略称 RCAST)を新たに設立いたしました。RCASTは表に示す3つのラボから構成されております。

R C A S T	ハイテク・リサーチ・ラボ	<ul style="list-style-type: none"> ナノ構造ハイブリッド・デバイス物性
	フロンティア・リサーチ・ラボ	<ul style="list-style-type: none"> 先端材料と複雑系科学 生体材料と環境適合機能 電磁環境とインテリジェントエレクトロニクス
	コラボレーション・ラボ	核磁気共鳴装置、高性能レーザー分光システム、電子顕微鏡、無響室、多目的風洞実験システム、多次元加振・制御システム、ほか多数の装置システム

2. 工学研究科連携大学院プログラム

多様な社会の要請に応じられる柔軟な問題解決能力を身につけた科学技術者を有するため、工学研究科と国公立の研究機関あるいは民間企業の研究所・センターとお互いに連携して大学院の教育・研究を行うプログラム「連携大学院」を実施しております。大学院生を軸とした共同研究体制を確立し、社会のニーズに促したアトラクティブで高度な研究の遂行により、工学研究科の研究能力を高め、同時に有為な若い人材を育成しております。

3. 海外諸大学・研究機関との国際交流協定

フランスのルール中央学院、パリ工業物理化学高等専門学院(ESPCI)、韓国の全南大学校工科大学と工学部

独自の交流協定を締結し、国際化を推進しております。フランスの大学2校とは、学生の交換も行なっております。また、全南大学校とは1999年8月韓国光州においてインターセミナーを開催し、本学から工学部長はじめ教員17名が参加いたしました。2000年夏には同志社大学でインターセミナーを開催する予定です。

4. 教育・研修の場の提供

(1) 大学院工学研究科の社会人入学制度

企業・研究所および官公庁で働く社会人に、近年の急激な科学技術の革新に対応できる高度な知識・能力を養っていただき、企業の技術水準をより高めていただくために、修士学位取得コース(博士課程前期課程)、博士学位取得コース(同後期課程)への社会人の特別入学制度を実施しています。

(2) 研修員受け入れ制度

社会人に専門分野に関する高度な知識・能力を養う場を提供するために、研修員制度を実施しています。

上記2項についての詳細は、工学部・工学研究科事務室へお尋ねください。(Tel:0774-65-6200)

5. 研究・試験環境(人材、設備)の提供

(1) 受託研究・調査・試験制度

理工学研究所を窓口として、企業および官公庁との共同研究や企業および官公庁では実施できない研究・調査・試験等の委託を受け付けています。例年約40件程度を受け入れ実施しております。詳細は理工学研究所事務室へお尋ね下さい。(Tel:0774-65-6220)

(2) 奨学寄付金

企業および個人から寄付金等を受け入れて、学術研究や教育の充実・発展に活用するものです。

(3) 共通研究施設、工学部共通図書室の利用

共通研究施設、共同図書室は企業・研究所および官公庁の方々にも利用していただけます。

社会とのネットワーク

6. 工学部オープンキャンパス

入学志願予定者を対象に、毎年7月下旬から8月上旬に、田辺キャンパスで1日、今出川キャンパスで2日、オープンキャンパスを実施しております。ここでは、各学部の教員による学部説明、学部カリキュラムおよび学生生活全般の質問コーナーを設け、多くの参加者を集めております。教員の説明による田辺キャンパスで工学部研究室の公開は好評です。

7. 同志社創立125周年記念事業

我同志社は西暦2000年に創立125周年を迎えます。この時を重要な契機として建学の精神を改めて確認するとともに、志の輪がさらに広がることを祈念しつつ、さまざま記念事業の実施を予定しています。詳細は創立125周年記念事業事務局(Tel:075-251-3026)までお問い合わせ下さい。

(1) 記念講演(京都)

2000年11月25日(土)14:00~17:00

於:国立京都国際会館(地下鉄国際会館下車)

(2) 記念シンポジウム(東京)

2000年11月11日(土)14:00~17:00

パネリスト:Dr. Ronald P. Dore, 大江 健三郎

於:東京国際フォーラム(有楽町)

(3) 記念講演会

仙台(6月10日)、新潟(6月23日)、金沢(7月8日)、札幌(9月22日)、神戸(10月7日)、名古屋(10月)、大阪(10月)にて開催予定です。

(4) 合唱祭

2000年11月18日(土)14:00~17:00

於:京都コンサートホール(地下鉄北山下車)

大学、女子大学、高校、中学、卒業生を含む全同志社の合唱団による合唱です。

(5) リユニオン・礼拝

● 創立125周年記念礼拝(今出川キャンパス:栄光館)
2000年11月26日(日)10:00~

● リユニオン(新島会館:京都市寺町丸太町上ル)
2000年11月26日(日)12:30~(予定)

● 早天祈祷会(京都若王子山頂)、
創立125周年記念式(今出川キャンパス:栄光館)
2000年11月29日(水)7:00~11:00

(6) 同志社ホームカミングデー&ウィーク

2000年11月1日(水)~3日(祝日)14:00~17:00

今出川キャンパス ハリス理化学館を"WELCOM HOME"として皆様をお迎えます。特に3日は全学的なイベントの一日となります。

(7) 同志社びわこリトリートセンター

これまで滋賀県北小松にありました小松学舎がリニューアルされ、2000年10月からびわこリトリートセンターとして生まれ変わります。同窓生の皆様にも宿泊施設(¥4,500~¥6,000)、会議室、テニスコート等がご利用いただけます。詳細は創立125周年記念事業事務局(Tel:075-251-3026)までお問い合わせ下さい。

8. 今出川キャンパス ハリス理化学館の施設

下記の卒業生ラウンジをご自由に利用して頂けます。また、Neesima Roomでは同志社設立の経緯をご覧いただけます。

● 卒業生ラウンジ

ハリス理化学館 1F 9:30~17:00 (土曜12:00)

連絡先:企画部企画室校友課 Tel:075-251-3009

● Neesima Room 「ハリス理化学校記念室」

ハリス理化学館 2F 9:30~17:00 (土曜12:00)

連絡先:同志社社史資料室 Tel:075-251-3042

工学部入試体制

1. 一般選抜入学試験

入学者の約7割弱を決定するのが、2月初旬に行われる本入学試験です。近年、18歳人口の減少および理工系離れで毎年志願者が減少しておりましたが、受験機会を増やし、より多くの優秀な方に志願いただけるよう、1999年度よりA方式、B方式として2回入試を実施しています。A方式は従来どおり英語、数学、物理(化学系は化学)の550点満点ですが、B方式は、英語の試験時間を1時間、配点を半分にした450点満点です。両方式導入の結果、1998年度比約40%増の志願者を集めることができました。また特筆すべきは、A・B両方式の併願者が1700人強、その内1500人強が同一学科を志願していることです。これは、本学部への入学を強く希望される方が多数おられることを示していると、自負しております。

2. 大学入試センター試験を利用する入学試験

本学部の入学試験問題は、マークシート方式ではなく論理的思考力を重視した記述式であり、問題の多様化に限界がありました。そのため、出願を躊躇されている受験生の方々にも志願いただけるよう、国公立大学志願者が受験される大学入試センター試験の成績を利用して可否を判定する本入学試験を1997年度に導入いたしました。1998年度までは、大学入試センター試験の成績と本学が実施する個別学力試験(数学)の成績で判定していましたが、1999年度からは、大学入試センター試験の成績と面接により判定を行っています。

3. 推薦選抜入学試験(工業高等学校等)

工業高等学校および一般高等学校の工業に関する学科の卒業予定者、高等専門学校(3年修了)の卒業予定者を対象にした入学試験です。高等学校時代から、科学技術に強い関心を持ち、工業に関する知識・技術を修得された方々を迎え入れ、大学入学後にそれらを発揮されることを、さらには他の入学試験により入学された方に刺激を与えられることを期待しています。

4. 学内高等学校および新島学園高等学校推薦入学

法人内諸学校(同志社、同志社香里、同志社国際、同志社女子の各高等学校)および新島学園高等学校の卒業予定者を各学校長から推薦いただき、面接のみにより合格を決定するものです。各高等学校との信頼関係、新島精神を基礎とした一貫教育により、多くの優れた生徒諸君を迎え入れております。

5. 工学部推薦入学

一般高等学校の学校長宛に推薦依頼を行い、面接のみにより合格を決定するものです。本入学試験制度は、高等学校と本学部との信頼関係で成り立っており、優れた生徒諸君を推薦いただいております。同志社の名前を全国に知らしめるために、全国津々浦々の高等学校に対し推薦依頼を行っており、1999年度からは少しずつではありますが、文書による推薦依頼だけでなく、入試委員が各高等学校を訪問し、ご意見等をお聞きして更なる信頼関係の確立に努めています。

6. アドミッションズオフィス方式による入学試験

従来の入学試験のように学力のみにより可否を判定するのではなく、本学部で学びたいという強い意欲を持つ志願者、学力試験では評価できない多様な能力を持つ志願者、大きな可能性を秘めた志願者を全国各地から迎え入れようとする入学試験です。各志願者から提出された大量の出願書類を多くの選考委員が読み、面接を行い、時間をかけて判定を行っています。

7. 社会人特別選抜入学試験(博士課程(前期課程)、修士課程、博士課程(後期課程))

企業の研究所で活躍されている方々を対象に、幅広い最先端技術を身につけていただくための入学試験制度です。毎年、若干名の募集ですが、最先端の技術・知識を身につけた教員の元で再度研究していただくことは、今後の飛躍を促す上で有効であると考えております。

詳細は工学部・工学研究科事務室へお問い合わせ下さい。(Tel:0774-65-6200)

ひとことエッセー

もっと drill を

木枝 燦

この小冊子の創刊号(1999)に、ヤンマーディゼル(株)の米澤徹さんが「企業より 今大学に望むこと」と題して、まことに適切な忠告をお書きいただいた。大学教員にとって耳の痛いことばかりである。そしてその多くは皆が自覚しており、相応に努力しているのであるが、なかなか思い通りにはいかず、空回りに終わることが多い。優秀な学生が相当数いるにも拘わらず、それはなぜなのか。

その理由は沢山あり、お互いに絡み合っている。米澤さんは「小学校は、中学校は、高等学校は生徒をどのように育てるべきかを(大学が)提案すべきではなかろうか」と言っておられる。これは望ましいことではあるが、実行されてはいない。趣旨は大学以外の教育にも問題があるということだ。事柄が教育問題の一端に触れると誰でも一家言あり、新聞紙上を賑わすが、今に始まったことではない。国立大学の独法化問題でもその淵源は遠く 1905 年に遡る。

世の中には分数計算のできない大学生がいるという。私の知人中でも英語の 3 人称単数現在形では動詞にsを付けるということを知らない建築学専攻の大学院生がいた。また国立大学を定年退官の後某私大に移った一友人は、内燃機関の外書講読で「internal combustion engine て何と訳すのですか」と聞かれて啞然とし、史上最低の大学だとぼやいていた。

確かに小、中、高にも問題はありますが、いやしくも同志社大学工学部に入学した学生は、あの難しい入試問題をそこそこ解いて入学した人達である。その基礎的な知識や判断力が入学以降の発達の妨げになるとは思えない。むしろそれを伸ばし切れない大学自体に問題がある。そのせいか母校に無関心な卒業生も多い。

本文章は「ひとこと」なので多くは言えぬ。問題点として「drill 不足」を挙げるに止めたい。いくら立派な講義しても学生が魂を入れて聴かねば意味はない。これでもか、これでもかという程練習問題を解かせて一人一人を drill せねばならぬ。米国の然るべき大学では昔から実行して

いる。実験・実習の分野でも同じである。君は電気掃除機を使ってこの物体に働く空気力測定の実験装置を製作せよ、とかお前はスパゲティ製造機械を設計せよ、などのテーマを与える。そのことにより学生の主体性、責任性、忍耐力、そして創造力を鍛えるのである。この場合正解はない。知的飢餓を発生させて自分で解決させるのである。

しかし、これを実行するためには教員数が決定的に足りない。米国では条件を満たす大学院学生にかなりの契約金を払って授業を持たせる場合もあり、学生との触れ合いが密になってよい結果を生じている。しかし日本では採点までまかせることにも問題がある。今のところ実行できない。

さらに学生側からするとあまりにも多くの科目を履修しなければならず、そのすべてに集中して納得いくまで勉強するには時間が足りない。復習するだけで授業の範囲を抜け出せないであろう。その結果どれもこれも有耶無耶になって入学当初の意欲を失い、楽勝のみを考えて怠けてしまうのである。

私は学生一人当たりの履修科目数をもっと減らすべきだと考える。学生の選択の自由を犠牲にしても止むを得ない。そして必修科目の小クラス化を計るべきである。語学では既にやっているではないか。そうして、登録した以上徹底的に鍛え上げられるようにすべきである。あれもこれも必要だという切りがない。落伍者は可哀想ではあるが責任をとってもらいより仕方がない。厳しい drill と自主的 training が必要なのである。そのことにより卒業生にこたえられると思う。

最後に、米国人の著した英語会話教本より引用する:

In the States, students are forced to learn. Here (in Japan) they're permitted to learn. Japanese universities are too lenient. (lenient は寛大な、情け深いの意であるが、ここでは皮肉をこめて、情深い結果「なっていない」と解すべきであろう。)

工学部名誉教授、元同志社大学学長

ひとことエッセー

工学部岳稜会を立ち上げて40周年

昨年11月小春日和の休日、工学部岳稜会の40周年記念行事を盛大に行うことができました。工学部岳稜会は1959年に山歩きを志すもので発足しました。北山の重畳とした山なみは毎日今出川学舎からも四季おりおりの風景に接することができ、またその懐も奥深く山と溪谷に興味を尽きることがありません。会としての山行は北アルプスをはじめ全国にわたっていましたが、つね日ごろ愛着のある北山へはホームグラウンドとして、たびたび出かけたものです。40年を経た今日ではOBも150人に達しています。

さて40周年行事は斯波(1979年 機械修)、野田(1969年 電気)の両幹事のもと周到に準備され当日のパーティーには70人が出席、東京や鹿児島など遠方からも駆けつけたOBや在学生も交え新島会館で行われました。挨拶もそこそこ山行の昔話に花を咲かせたりOBと現役の噛み合わせ議論など楽しく過ごすことができました。二次会は34人が参加、暮れなずむ花脊峠でひと休み。うす紫に染まった北山のオゾンを一っぱいに吸い、その夜は山村交流センターで星空のもとパーベキューパーティーの開始。その後、ストーブを囲み、繰り返す昔話や自慢話で夜が更けていきました。翌日は三本杉から知世路林道まで登り峰床山に至り八丁平を周りナメラ谷を経て大悲山に戻るというコースです。昼すぎには京都府第二の高峰、標高970mの峰床山に全員無事到着。晩秋の八丁平の湿地帯を満喫し秋の日の柔らかい残照のもと大悲山までのんびり歩き全行程を終わることができました。

私の学生時代は昼なお薄暗く北山特有のクマザサやジャクナゲに覆われ踏み跡さえなく歩くのに難渋したところが今回のルートには幅広い車道ができ山肌が無残に削られてところが見受けられました。北山の自然がいつまでも優しく残ってほしいと願うのは私だけではありません。

1962年電気工学科卒 上西 勝也

どんな時代でもどんな場所でも人と自然が共生していくためには開発の波を避けることができませんが、急速で大規模な北山の替わりようにただ驚くばかりです。

今回の40周年行事は多数の異なる卒業年次や出身学科の人たちの参加があり大成功のうちに終わることができました。OB会はますます発展すると思われませんが残念なことは肝心の岳稜会本体が衰弱しつつあることです。登山そのものに在学生の皆さんの関心が薄れており学内の他の山岳会と同様に会員が減っているのが問題です。

最後になりましたが本会が長く健全に続いてきたのは現工学部実験講師の野田君と現顧問、理工学研究所の西邨教授のご尽力によるところが多々あります。両氏の豊かな技能と指導力がなければ今日の岳稜会はあり得なかったでしょう。厚くお礼を申し上げます。

園田計器工業株式会社 取締役



工学部岳稜会40周年記念集会 前列中央が筆者

ひとことエッセー

折角の絆を大切に

古川 功

卒業して年が経つと共に大学とは疎遠になる。そこでいま大学では卒業後も大学を利用していただくことで、卒業生と大学との繋がりを強固なものにして、互いの発展に役立てようと卒業生を対象とする校友課が設置され、また両者を結ぶコミュニケーション誌の Wild Rover も年2回発行されている。また工学部においても工学会報を通じて工学部の動向や研究成果を逐次アナウンスされてきたが、さらに 1999 年からは同窓会会報の発行とインターネットのホームページが開設され、これにより従来の大学から卒業生への一方的な情報の発信ではなく、卒業生から大学への情報発信も可能となり、両者の絆はより一層深まるものと期待されている。しかしながら、これらの試みも財政的な基盤と卒業生との連絡網が確立されていること

が最低限必要である。転勤などにより転居した場合、連絡がないとその時点で両者のパイプは絶たれてしまう。工学会名簿の初版が発行されたのは今から35年前の1965年で、これは大学と卒業生間のみならず、広く卒業生間での情報交換や社会的活動における情報源として大いに貢献した。当時と比べると現在は膨大な数の卒業生で、やむを得ないことかもしれないが、住所欄の空白が年々増加しているように感じられる。本人の希望で掲載されない場合もあるが、大部分は転居に伴う連絡漏れである。不注意により折角の絆を自ら断ち切るようなことは避けたいものである。

同志社大学工学部機能分子工学科 教授

第 12 回工学部同窓会リユニオン報告

新島会館において、1999年11月27日(土)午後1時から93名の参加を得て開催致しました。第1部の工学部同窓会総会では昨年度の決算と事業報告、今年度の予算と事業計画、会則改正の後、幹事会推薦の坂ロー彦工学部教授(昭和32年機械卒)が次期同窓会長に選任されました。任期は2000年4月から2年間。引き続き、軽食とビール、ワイン、ウイスキー、ブランデー…の懇親会でご退職の先生方と現役の教職員の方々を交え参加者の懇談が続きました。生協の同志社グッズ販売店も会場に開設され、同志社煎餅なるものも登場し好評でした。ご退職の(電気)岩本国三、谷口一郎、卜部泰正、津田博、橋口清人(機械)木枝燦、三木英雄、平井恒夫(化学)橋本静信、清水澄、三輪茂雄(数学)松本誠 先生方12名と現教員17名が参加致しました。第2部は学年同窓会開催の準備期間が短く、企画が進行したところのみに実行していただきました。

第2部卒業年グループリユニオン(詳細はホームページに掲載しております)

電気系	50周年	昭和24年	11月11日「ちもと」(四条大橋詰)参加18名、次回は2001年京都にて
	40周年	昭和34年	盛年会リユニオン「ホテルサンフラワー京都」参加13名
	35周年	昭和39年	「平城」(新若草ドライブウェイ沿)一泊 参加24名
	30周年	昭和44年	44年卒電気電子有志同窓会「大江戸」参加14名
	20周年	昭和54年	加藤宅 参加数名
	15周年	昭和59年	「くれない」(鉄板焼き:荒神橋西詰)参加10名 HPに写真あり
	10周年	平成元年	菜花亭(チャイニーズ・ダイニング・バー) 京都タワービル北新館 参加20名
機械系	45周年	昭和29年	嵐山ホテルのあと保津川下り 参加18名 DoKo ネット(本号)に掲載
化学系	45周年	昭和29年	10月1日(金)-2日(土) 京都ガーデンパレス 大学訪問 参加17名

OB会あれこれ

同遊会レポート（1954年工学部機械学科卒同窓会）

1954年機械学科卒 福岡 勝義

1954年工学部機械学科卒の16名（特別参加された木枝元学長を含めると17名）が、1999年11月27日（土）～28日（日）の2日間、5年ぶりに（27日は新島会館の“リユニオン第12回工学部同窓会”に出席）嵐山のホテルに集合し、総会后、保津川下りを楽しんだ。

同窓生は50名であるが、成長期の小中学時代を戦時中の貧しい食料事情で過ごしたためか、既に12名が欠け現状38名の同窓生となってしまった。その中で42%の集合率は、非常に高い数字と自負している。

最初の同窓会の開催1979年（S54）から数えて今回は7回目となる。会合を重ねる毎に学生時代に殆ど付き合いのなかった学友とも親しくなっていくのが愉快で楽しい。

卒業後45年、70歳近辺の年代となると、次の3種の種族に分類されるようである。

- 1: 自営業の社長・サラリーマン重役
- 2: サラリーマンの相談役・顧問
- 3: 悠々自適者

1の種族の自営業社長やサラリーマン役員達は、忙しい業務であろうが自分で自由な時間を持てるので、ライオンズクラブ・ロータリクラブなどに積極的に参加し、ステータスの高いボランティア活動などで地域社会に貢献している。

2の種族は、趣味がない上に小遣いが少ないので、仕方なく「サムエル・ウルマンの青春」気取りで勤務を続けている。肩書きはステータスであるが、ラインから除外された収入の少ない体のいい雑役達（便利屋）である。

3の種族は、責任のある地位からようやく離れ生活も安定し「毎日日曜」の気楽な人達であるが、この種族でもA・B分類出来る。

A種族は、今迄の勤務で蓄積した鬱憤を発散させるた

めに、旅行・絵画・彫刻・園芸・魚釣り・カラオケそうしてゴルフなど多彩な趣味で生活をエンジョイしている。

B種族は、猛烈会社人間の典型であるため趣味の持てなかった人達である。口の達者ほど体が動けないから家族から疎外され「我が人生は何であったか？」など“ぼやき”となる。

これらの種族が集まると、多種多様な話題で会合が盛り上がる。

総会後のカラオケは、流行歌（軍歌を含め）・歌謡曲から演歌と続くが、早口の歌詞の解らない？ポップスのリクエストはない。（“はにほへといろは”の戦前戦中の音楽教育を受けた者には歌えない。？）

「星のながれに」「人生の並木道」「星影のワルツ」「とまり木」「同期の桜」など。そうして最後は「カレッジソング」（カラオケにあるのには、驚いた。）の斉唱でお開きとなる。

若い世代の人から見れば、“けったいなおっさん”の集団であろう。

嵐山から亀岡間のトロッコ列車は、超満員でオープンカーにもかかわらず禁煙席、風がびいゆん、びいゆん、寒い事この上ない。

眼下に保津川舟下りの人達がこちらに手を振っている。こちらも礼儀上、手を振りながら「馬鹿・阿呆」と返礼する。その応答は聞こえないが多分「有り難う」と言っている様だ。？（同じように「馬鹿・阿呆」かも知れない。）

絶好の紅葉の季節であったので、何処もかしこも超満員。「よぼよぼ集団」には楽しい2日間の終学旅行であった。

(株)ミツヤ送風機製作所

OB会あれこれ

化学系関東地区OB会について

1960年 工業化学修士課程修了 重政 恒夫

工学部同窓会が独立発足したことを、卒業生の一人として喜んでいきます。独立発足に尽力されたみなさまに深甚の謝意を表す次第です。同窓会には、横割りの卒業年度別同窓会、縦割りの研究室別同窓会、地区別同窓会などがあります。これらの同窓会がそれぞれ活発に活躍することにより工学部同窓会がさらに発展し、また、工学部同窓会がこれらの活動をバックアップされることにより一層の飛躍が期待できると考えます。卒業年度別同窓会、研究室別同窓会は、運営が比較的やりやすくなり活発に活動されているのが現状ではないでしょうか。これにくらべて、地区別同窓会は運営が難しく今ひとつ活発な活動がなされていないように思います。ここでは、化学系関東地区OB会の現状と発足の経緯を述べ、関東地区在住のみなさまのご協力と、工学部同窓会のご支援をお願いしたいと思います。

化学系関東地区OB会は、1997年(以下1900年省略)9月に発足(幹事代表水口一衛氏、61年卒、元三洋化成専務、現サン・ペトロケミカル社長)、事務局代表執行大輪氏(61年卒、執行商事会長)し、約100名の出席をえて、新宿三井クラブで盛会裡に開催されました。爾来、毎年秋に開催しており、第2回には三輪先生、古川先生、橋本先生においでいただきました。また、99年は日本化学会が関東で開催されたこともあり、春に横浜で実施し、加納先生はじめ多くの先生にご出席いただきました。なお、第4回からは、幹事代表鈴木淳平氏(61年卒、日本特殊塗料会長)、山東邦雄氏(63年卒、三木産業専務)の名コンビでご尽力いただいております。

2000年は、日本化学会の開催にあわせて、3月29日(水)18:00アルカディア市ヶ谷 私学会館(中央線、地下鉄市ヶ谷下車)で開催しますので奮ってご参加ください。

化学系関東地区OB会の前身は、63年ごろに遡ります。私が川崎に勤務するようになり同級の家倉隆一氏(58年卒、元第一高周波専務)と会い、故手嶋秀男氏(55年卒、

元川原油化常務)のご協力を得て山王ホテルで開催し、松山先生にご出席をいただき盛会で会ったことを覚えています。当時はまだ関東地区在住の卒業生も少なく、所在の確認も容易でなく一回開催するのに多大の労力と時間がかかりました。手嶋さんは当時から同志社東京支部同窓会のお世話もなされており、このご協力がなければ今日のOB会はなかったでしょう。手嶋さんは借しくも97年に急逝されました。ここに謹んでお礼とお悔やみを申し上げます。私も家倉氏も70年に転勤したのでこの時の同窓会は2、3回で終わりとなりました。つぎは、私と水口氏が東京転勤後の80年に再開しました。古川先生、山下先生などにおいでいただき、それから原先生の学長就任のお祝い会などを含めて2、3回開催したと思います。

このように中断を繰り返しようやく現在の定期的で開催できるOB会となりました。今回のOB会の発足にあたっては、約20名の方々が幹事として尽力され何回も幹事会を開催しました。今村靖氏(59年卒、現地下開発利用研究センター研究主幹)、増本尚文氏(83年卒、富士合ゼロックスリーダー)、中村亜矢氏(88年卒、富士通)や、毎回のご出席いただく先輩、中村毅氏(51年卒、元古河電池常務)、宇佐美盛爾氏(53年卒、現北京国際経営管理者養成学校代表)、林英毅氏(56年卒、寿化工代表取締役)などのご支援もあって定期的で開催できていることも忘れてはならないことです。このように地区同窓会の活動は多くの方々の献身的な努力に支えられなければ到底継続的に続けることはできません。この機会に化学系関東地区OB会を支えていただいている方々にお礼を申し上げるとともに、工学部同窓会のご支援をお願いする次第です。できるだけ資料をもとに記述しましたが、一部記憶にたよった部分もあります。年度、勤務先、役職など誤っている場合はお許しください。

経営コンサルタント

(連絡先:03-5696-7452, tsamura@blue.ocn.ne.jp)

OB会あれこれ

三菱自動車京都製作所 OB 会

1987年機械工学科卒 瀧 高弘

三菱自動車には、多くの同志社大学OBの方々が活躍されています。OB会はそれぞれの製作所で独自に行っているようですが、ここでは京都製作所でのOB会の紹介をさせていただきます。京都製作所は、100名近くの卒業生が在籍したこともある三菱でも大きなOB会です。名前も同志社大学のマークにちなんでクローバ会という名で年1回の会合を定期的の実施しております。仕事では見られないような和気あいあいとした雰囲気のなか、上司部下の区別なく、年齢を越えた交流の場です。ここで深めた交流は日常の仕事でも非常に大きな支えとなっております。

三菱自動車 京都製作所 品質管理部

神鋼同志社 OB 会

1985年機械工学専攻修了 田中 達也

神戸製鋼所には、現在同志社大学の卒業生が約150名在籍します。その内訳は技術系が約80名、事務系が約70名です。そして、卒業生の集う会として神鋼同志社OB会というものがある。1986年から存在しています。新入社員歓迎会として年に1度、三ノ宮近辺で集まる程度の活動ですが、毎回20名程度が参加され、社内の横の繋がりができるよい機会になっています。神鋼を退職された方も参加され、昔話を花を咲かせながら情報交換の場となっています。

(株)神戸製鋼所

大学と卒業生を結ぶコミュニケーション誌
"Wild Rover" ご希望の方は、同志社大学校友課
Tel : 075 - 251 - 3009, Fax : 075 - 251 - 3097
までお申込下さい。

三菱電機 菱紫会 (伊丹地区)

1964年電気工学科卒 岡本 晃

菱紫会は三菱電機とその関連会社に勤務する同志社大学卒業生のOB会です。1960年代中頃に当地伊丹地区(伊丹製作所、通信機製作所、中央研究所、周辺の関連会社)で発足し、以来年々新しい卒業生を迎えて142名の会員を擁しております。定例会として年2回、春の新入社員歓迎会と忘年会または新年会を催して20~40名が集って情報交換や母校の思い出に花を咲かせます。また関東地区に勤務するOBの菱紫会(関東地区)をはじめ各地区毎の菱紫会があり、本会創設10年毎に全社合同の菱紫会集会を母校の地京都で開催しております。

三菱電機 通信機製作所 電子情報システム部

松下電器産業「松紫会」

1964年電気工学科卒 松村 修治

松下電器産業を本社とする松下グループには千人を越す同志社大学の卒業生が全世界に散らばって働いています。これらの卒業生をメンバーとして「松紫会」と言う企業内の同窓会をつくっています。松下電器は学閥のない会社ですが、年に一回新人の歓迎会を兼ねて懇親会を京都のホテルで、大学の先生方にもお越しいただき開催しています。この会は20年以上続いており、これからも続いてゆくものと思います。

松下電子工業(株)
知的財産権センター
渉外部長



1954年機械学科卒
永松正信氏の作品です

同志社大学工学部同窓会会則

総則

- 第1条 本会は同志社大学工学部同窓会(以下同窓会と略す)と称する。
- 第2条 本会は会員相互の親睦を厚くし、同窓生と同志社大学工学部の双方の発展に貢献することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。
1. 研究会、講演会
 2. 同窓会報および名簿の発行
 3. 同窓生懇親会（リユニオン等）の開催
 4. その他必要と認められる事項
- 第4条 本会事務局の設置場所は、同窓会幹事会において決める。

会員

- 第5条 本会の会員は、同志社大学工学部(大学院および旧工業専門学校を含む)卒業生、学生として在籍した者、工学部の現教職員、および元教職員とする。正会員の年会費は2千円とする。

役員と幹事会

- 第6条 本会に会長1名を置く。会長は総会において選出する。また本会に幹事長を置く。幹事長は幹事会において選任する。
- 第7条 本会には、各学科において互選された各学科数名の学内幹事および数名の学外幹事、会計監査を行う監事2名を置く。

- 第8条 会長、幹事、監事の任期は、原則として2年とし、再任を妨げない。幹事は、自己の都合により幹事を辞任する場合、幹事会に後任者を推薦できるものとする。
- 第9条 幹事会は、会長1名と幹事より構成し、幹事長もしくは会長が、幹事会を召集する。
- 第10条 幹事会は毎年度の事業計画書・事業報告書(予算、決算報告を含む)を作成し、事業を行う。
- 第11条 幹事会議事録、事業計画書、事業報告書は本会事務局に保管する。

総会

- 第12条 本会は原則として年1回総会を開催する。
- 第13条 総会は会長がこれを召集し、議長を務める。
- 第14条 次の事項は総会に報告する。
1. 前年度決算・事業報告
 2. 当該年度の予算・事業計画
 3. その他幹事会で必要と認めた事項
- 第15条 総会の議事録は本会事務局に保管する。

付則

1. 本会の会則の変更は幹事会で起案し、総会で承認を得て、工学会へ報告する。

1999年11月27日改正

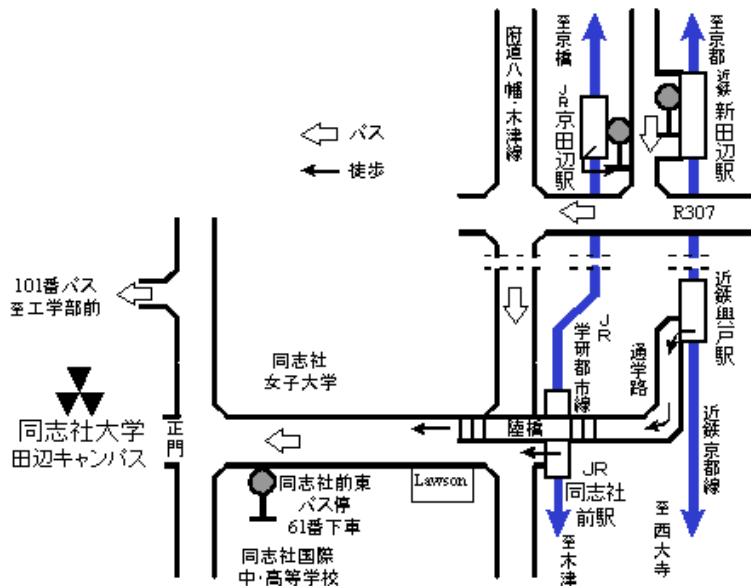
幹事会

工学部同窓会幹事

		氏名	卒業年	所属	
会長	(学部長)	加納 航治		同志社大学工学部	
学外幹事	電気系	上西 勝也	S37 電気	園田計器工業(株)	
		藤原 義博	S39 電気	松下電器産業(株)	
		橋詰 源治	S43 電気	(株)橋詰気工業所	
	機械系	中村 成男	S42 機械	(株)堀場製作所	
		大久保 稔	S56 機械, S58 修機械	ヤンマーディーゼル(株)	
		田中 達也	S58 機械 II, S60 修機械	(株)神戸製鋼所	
		瀧 高弘	S62 機械	三菱自動車工業(株)	
		深見 洋司	H1 機械 II, H3 修機械	川崎重工業(株)	
	化学系	中山 仁郎	S39 工化, S41 修工化	日本ニューマチック工業(株)	
		近持 隆	S41 工化	パクセルインターナショナル(株)	
		堀内 健一	S49 工化	ニッタ(株)	
		湯浅 智	S53 工化, S55 修工化	日新電機(株)	
		中村 清己	S55 化工, S58 修工化	宝塚市立高司中学校	
	学内幹事 (幹事長)	知 織	芳賀 博英		hhaga@mail.doshisha.ac.jp
			電気系 大鉢 忠		tohachi@mail.doshisha.ac.jp
機械系		長岡 直人		nnagaoka@mail.doshisha.ac.jp	
		千田 二郎		jsenda@mail.doshisha.ac.jp	
化学系		平田 勝哉		khirata@mail.doshisha.ac.jp	
		塚越 一彦		ktsukago@mail.doshisha.ac.jp	
監事	(前会長)	田中 義文		ytanaka@mail.doshisha.ac.jp	
		戸高 敏之		同志社大学工学部	
前幹事	電気系	(前幹事) 米澤 徹	S40 機械, 博士	ヤンマーディーゼル(株)	
		中野 恵二	S55 電子	富士通テン(株)	
	機械系	大田 建久		同志社大学工学部	
		汐見 知行	S45 機械 II	三菱自動車工業(株)	
	化学系	辻 克巳	S45 機械 II	住友電気工業(株)	
		東城 哲朗	S51 工化, S53 修工化, 博士	東洋炭素(株)	
		山口 修		同志社大学工学部	

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>

工学部同窓会ホームページアドレス <http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>



同志社大学 田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3

工学部・工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0774-65-6804

同志社大学工学部同窓会へのご質問, ご意見あるいは
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。
同窓会事務局(大角)あてご自由に連絡, 投稿下さい。

2000年2月15日発行

同志社大学工学部同窓会

発行者: 加納 航治

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学工学会内

工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850

印刷者: (有)木村桂文社 Tel:075-381-9784 Fax: 075-381-1510